令和6年度自己評価表

鳥取県立八頭高等学校 令和6年10月

【中長期目標(学校ビジョン)】

- 1 主体的で深い学び、幅広い学びをとおして、学問への興味・関心や実践力を養い、社会参画力、課題対応力を育成する。
- 2 地域に学び、地域に貢献する態度を育てることをとおして、ふるさとを愛し、社会の平和と発展に寄与する実践力を育成する。
- 3 協働的に試行錯誤、切磋琢磨しながら学び、自身の夢の実現に向け、努力する力を育成する。

【今年度の重点目標】

- 1 生徒の進路希望の実現にむけた支援
- ① 基礎学力の充実
- ② 授業改善の推進
- ③ 探究活動の充実
- ④ 進路実現への支援
- 2 心身の健全な発達の促進と主体性の伸長
- ① 基本的生活習慣の確立
- ② 規範意識の高揚
- ③ 多様性に配慮した他者理解力の育成
- ④ 部活動の推進
- ⑤ 学校行事への積極的関与

- 3 生徒・保護者・地域に信頼される学校作り
- ① 地域貢献活動の推進
- ② 情報発信の推進
- 4 業務改善の推進
- ① 時間外業務縮減への意識

| ·価 〔目 | 評価の 具体項目 | 令和6年度当初 | | | 評価結果 (9月) | | |
|--------------|-------------|--|--|---|--|----|---|
| l H | | 現状 | 目標 (年度末の目指す姿) | 目標達成のための方策 | 経過・達成状況 | 評価 | 改善方策 |
| 1 | 基礎学力の充実 | ・自宅学習時間調査(11 月)では、1 週間の平均で1日当たり、1年86.4分、2年84.2分、3年133.4分であり、昨年度調査よりも減少した。 ・授業評価アンケートでは、学習内容に興味、関心を持ち、意欲的に取り組む生徒の割合が、1年85%、2年82%、3年89%。 | ・自宅学習時間は、1週間平均で1日当たり、1、2年が120分以上、3年が200分以上。 ・学習内容に興味、関心を持ち、意欲的に取り組む生徒の割合が、各学年とも90%以上。 | ・自宅学習調査を定期的に実施し、学習 状況を把握した上で学習習慣の定着 を図るよう指導する。また、学習支援 サービスの活用を促す。 ・模擬試験の成績状況を分析し、基礎学 力向上のための対策を実施する。 | ・5月の自宅学習時間調査では、1年92.1分(-44分)、2年106.6分(-19分)、3年113.2分(-41分)[括弧の数値は昨年同期との差]。今年度は1学期中間考査を行わなかったこともあり、昨年度よりも減少した。 ・授業評価アンケート(7月)では、学習内容に興味、関心を持ち、意欲的に取り組む生徒の割合が、1年86.1%、2年90%、3年86.7%。・模擬試験の成績状況の分析を全職員に示し、指導の参考として情報提供を行っている。 | С | ・クラスや学年独自で自宅学習時間を持握し、生徒への声掛けを検討する。 ・1 学期中間考査の実施有無や学習時間確保のための方策について検討する。 ・生徒の学習への意欲は認められるので、主体的に取り組める学習内容や対法を提示し、学習時間増加につなが表方策を考える。 ・教科ごとに模擬試験の成績状況を確認してもらい、必要に応じて対策をある。 |
| 生走の焦路希望の実現こ句 | 授業改善の取組 | ・昨年度は全9教科で計17回の公開研究授業を実施し、教員間で授業改善の情報共有に努めることができた。 ・主体的、対話的で深い学びを促進する授業改善をねらいとした校内職員研修を2月に実施し、職員のスキル向上を図った。 | ・全教科で研究授業、公開授業を総計 25 回以上実施し、他教科の授業も 参観することで授業改善の参考と する。 ・教材の工夫や ICT の活用により、生 徒の活動場面が増え、生徒が主体的 に取り組む授業が実践される。 | ・全教科による研究・公開授業や校内研修を実施し、教科の枠を超えた授業改善に取り組む。 | ・9 月時点で、計 11 回の公開・研究授業を実施した。 ・ICT を活用した授業実践に向け、校内研修会を 4 回実施した。また、ICT の活用や主体的、対話的で深い学びの実践を目的とした公開・研究授業を実施した。 | С | ・公開・研究授業未実施の教科について、実施計画を確認する。 |
| 可すを支援 | 探究活動の充 実 | ・探究部の調査(1月)において、探究活動により思考力等が向上したとする生徒の割合は38.3%。 | ・探究活動をとおして、思考力等が向上したとする割合が60%以上。 | ・主体性等の評価の研究、指導方法の研究(問いづくり・情報分析)を推進する。 | ・探究活動プログラムの改良を継続的に行っている。 ・評価方法を再検討している。 ・第1回アンケート(9月)において、思考力等が向上したとする生徒の割合は41.1%。 | С | ・探究活動を主体的な活動とするためのプログラム開発は今後も検討が必要。生徒の興味関心をより引き出す資料づくりや指導者のスキルアップを図るための情報提供等が今後も一層必要と考える。 ・思考力等が向上したとする割合を高めるために、探究活動で生徒が思考ツル等を効果的に活用できるよう、指導を充実させる。 ・評価基準の検討を継続し、より確度の高い評価方法を構築する。 |

| 評価 | 評価の | 令和6年度当初 | | | 評価結果(9月) | | |
|---------------|--------------------------|---|---|--|---|----|--|
| 項目 | 具体項目 | 現状 | 目標(年度末の目指す姿) | 目標達成のための方策 | 経過・達成状況 | 評価 | 改善方策 |
| 1 生徒の進路希望の実現に | 進路実現への支援 | ・学校評価アンケート(11月)では、進路実現に向けて努力している生徒の割合は79%。 ・進路志望調査(10月)では、4年制大学を志望している生徒が1年162名(68.0%)、2年169名(71.3%)、3年185名(78.2%)であり、そのうち国公立大学志望者は1年138名、2年120名、3年102名であった。 ・令和6年度入試で共通テストの出願は121名(50.4%)であり、国公立大学の現役合格者数は53名。 | ・進路実現に向けて努力している生徒の割合が全体で90%以上。・国公立大学の現役合格者数が50人以上。 | ・高い志望を掲げ努力する生徒を育成 するために、各類型の特色を踏まえ ながら進路関係行事を充実させ、生 徒の進路志望の実現を図る。 | ・4 月の進路志望調査によると、4 年制大学の 志望者は1年128名(53.1%)、2年164名 (70.4%)、3年171名(73.4%)であり、そ のうち国公立大学志望者は1年110名、2年 138名、3年114名であった。1年は未定とす る生徒が昨年より増加している。 ・令和7年度入試共通テストの出願は113名 (48.5%)。昨年より8名減少。一昨年より19 名減少。 | С | ・大学説明会や講演会などを行い、大学進学への意識を高める工夫をしていく。 ・クロームブック等を活用し、進路情報を収集、活用できる環境(プリントアウト等)を充実させる。 ・面接指導や進路 LHR で活用できる資料や情報を紹介、提供する。 ・各大学の入試結果や志望動向をもとに入試情報を分析、研究する。 |
| 2 心身 | 基本的生活習慣の確立 | ・生活リズムアンケート(10月)では、 午前 0時以降に就寝している生徒の 割合が 40%、睡眠が足りていないと 感じている生徒の割合は 66.5%、毎 日朝食を取っている生徒の割合は 90.4%。 ・学校生活アンケート(1月)では、スマートフォンの使用について家庭でルールが決められている生徒の割合は 38.8%、平日1日平均3時間以上使 用している生徒の割合が24.9%。 | ・睡眠が足りていないと感じている生徒の割合が40%以下、毎日朝食をきちんと取っている生徒の割合が95%以上。 ・スマートフォンについて、家庭での使用時間や時間帯についてルールが決められている割合が70%以上。 | ・生徒保健委員会による「八頭高スマートプロジェクト」を実施し、生徒が自主的に生活習慣を整えることができるよう支援する。 ・日頃から学習規律の確立及び定着を図るよう指導し、スマートフォン・SNSの使い方については講演会やLHRを実施することで、生徒の自己管理能力の育成に取り組む。 ・生活習慣づくりに関する保護者研修会を実施する。 | ・4月の健康教育アンケートによると、睡眠が足りていないと感じている生徒の割合は70.8%、毎日朝食を取っている生徒の割合は93.5%であった。 ・アンケート結果については、保健委員が考察し、図書館に掲示、保健だよりで紹介した。 ・翠陵祭で「八頭高版スマート・ライフ・プロジェクト」について発表した。 ・7月に保護者を対象とした食育研修会を実施した。 ・9月の学校生活アンケートでは、スマートフォンについて家庭でのルールが決められている割合は37.9%、平日1日平均3時間以上使用している生徒の割合は24.4%であった。 | D | ・今後も健康教育アンケートを行い、その結果を考察し、周知する。 ・八頭高スマート・ライフ・プロジェクトで主体的に「基本的生活習慣」を整える活動を行う。 ・生徒保健委員による活動、保健 LHR の企画、運営や保健だより等で啓発していく。 ・11 月に健康教育 LHR で睡眠について学習する予定。 ・スマートフォンの利用時間や利用方法、利用に伴うトラブル等についてSHR や学年集会等の時間を活用し、啓発していく。 |
| の健全な発達の | 規範意識の高揚 | ・学校評価アンケートでは、100%の生 徒が学校で定められたルールやマナ ーを守るよう心がけている。なお、生 徒がルールやマナーを守っていると 評価している保護者の割合は97%、 職員の割合は89%。 | ・ルールやマナーを守るよう心がけている生徒の割合が98%以上。・改正した校則やマナーを守った上で、生徒の主体的な活動により、校則の意義を考え、必要な見直しが行われている。 | ・挨拶の大切さやルール・マナーを遵守する意義を理解させ、自主的に守るよう指導する。・令和7年度の制服の変更にあわせ校則の見直しを行う。その際、生徒が主体的に参加するように支援する。 | ・生徒は挨拶やルールを守ることの大切さを 概ね理解しているが、スマートフォンの利 用については、校内での無断使用、個人情 報の取扱等に課題がある。 ・制服の変更に伴い、校則の見直しを行って いる。 | D | ・校則の見直し検討委員会を立ち上げ、 生徒が話し合う機会を設けたり、PTA にアンケートをしたりして、教員、生 徒、保護者が三位一体となって校則の 見直しを行う。 |
| 促進と主体性の伸長 | 多様性に配慮 した他者理解 力の育成 | ・学校評価アンケートでは、生徒87%、保護者77%が、学校は心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると考えている。 ・生徒82%、保護者72%は、学校が保護者(家庭)と連携して教育活動を行っていると考えている。 | ・生徒の心身の悩みに適切に対処していると回答する生徒の割合が85%以上、保護者の割合が80%以上。・保護者(家庭)と連携して教育活動を行っていると回答する生徒の割合が85%以上、保護者の割合が80%以上。 | ・多様性を尊重する態度や互いの良さを生かして協働する力を身に付け、他者への共感や思いやりなどの豊かな人間性を育む教育を推進する。 ・日頃の観察や面談、心理検査等をとおして生徒理解を深め、適切な指導・支援を行う。 ・家庭や地域との連携を密にし、地域全体で生徒の健全育成に取り組む。 | ・生徒へのきめ細かい観察や面接、保護者との対話を深め、他の教職員との情報共有や連携を深めることで、生徒に関する幅広い情報の収集と多面的な理解に努めている。 ・PTA あいさつ運動、ピンクシャツデー、愛し愛され運動の実施など、保護者、八頭町等の地域の協力を得ながら、生徒の健全育成に取り組んでいる。 | В | ・「学校生活アンケート」「Hyper-QU」の 調査結果を踏まえ、悩みを抱えている 生徒の情報共有を行い、認知行動療法 やエゴグラムなどの心理検査を用い て個別支援を行っていく。また、家庭 や SC、SSW、関係機関等と協力しなが ら適切な支援を行う。 |
| | 部活動の推進 | ・学校評価アンケートでは、部活動に所属する生徒のうち、学習との両立に向けて努力していると回答した生徒は40%、ややできている生徒が40%であったが、あまりできていないと全くできていないという生徒は20%。 ・全国大会へ出場した生徒は44名(実人数)。 | ・学習と部活動の両立に向けて努力している生徒の割合が60%以上。・全国大会に出場する生徒数が50名(実人数)以上。 | ・生徒が向上心と意欲をもって粘り強く取り組めるよう的確な方針や目標・計画等を設定するとともに、学習との両立を支援する。 | ・9 月末段階で全国大会に出場した生徒数は 25 名。(昨年度同期 39 名) 陸上競技 1 名、ホッケー男子 15 名、柔道 5 名、放送 4 名 (実人数) | С | ・現段階で目標の半数であり、目標の50 名をクリアするために年度後半の全 国大会出場に向けて活気のある練習 に取り組む。 |

| | 評価の | 令和6年度当初 | | | 評価結果(9月) | | |
|------------------|-----------------|--|---|--|---|----|--|
| | 具体項目 | 現状 | 目標 (年度末の目指す姿) | 目標達成のための方策 | 経過・達成状況 | 評価 | 改善方策 |
| 2 心身の健全な発達の | 学校行事への 積極的関与 | ・学校評価アンケートでは、HR 活動や生徒会活動、学校行事で主体的に活動していると回答した生徒は89%。 | ・HR 活動や生徒会活動、学校行事で主体的に活動している生徒が 80%以上。 | ・諸行事や学校生活等の様々な場面に おいて生徒が主体となって企画し、 実施できるよう支援するとともに、 その方法を下級生に引き継ぐことが できるよう指導を行う。 | ・生徒会執行部が主体となった翠陵祭を実施 できた。内容の見直しや新たな企画に取り 組むことができた。 | В | ・定期的に委員会を開催し、HR 役員、生 徒会執行部としての活動をより充実 させる。 |
| 3 生徒・保護者・地域に信頼され | 地域貢献活動の推進 | ・学校評価アンケートでは、学校が地域と連携した教育活動に積極的に取り組んでいると回答した生徒は89%。 ・探究活動により、地域理解が深まったとする生徒の割合は38.3%。 ・昨年度第1回愛し愛され運動(6月)には、413名(全校の57.9%)の生徒が参加。第2回(10月)では1、2年を中心に342名(全校の47%)が参加した。 | ・学校が地域と連携した教育活動に 積極的に取り組んでいると考える 生徒が90%以上。 ・地域理解が深まったとする生徒の 割合が60%以上。 ・「愛し愛され運動」への参加者が各 回とも全校生徒の40%以上。 | ・地域の清掃活動や挨拶運動、保育所や 福祉施設との交流行事に積極的に取り組み、地域を愛する心を育む。 ・小中学校との交流行事や探究活動での地域及び企業等との連携を充実させ、生徒が自身の生き方、あり方を考えられる機会とする。 | ・6月に実施した「第1回愛し愛され運動」には322名が参加した。全校生徒の約45%が参加し、目標の40%を上回った。部活動以外の一般参加の生徒は8名であった。・体育類型による郡家西・東小学校スポーツテスト補助を実施した。・翠陵祭に地域の団体を招き模擬店で飲食物を提供していただいた。・2年翠陵探究の鳥取大学連携、企業連携を計画通り実施。特に企業連携では、生徒の探究テーマに合った連携を実施できた。・地域理解が深まったとする生徒の割合は44.8%。・探究活動において3年生の数チームは八頭町内の小中学校を訪問し、成果発表や交流会を実施した。 | В | ・地域連携の世代の幅を広げるよう、「第2回愛し愛され運動」では一般生徒の参加を中心とした保育所の清掃ボランティアを実施する予定。 ・12月に保育所を招いた体育行事を実施し交流を図る。 ・探究テーマについて、例年に比べて地域色が薄まったため、地域理解の深まりの意識が低迷した。今後、各テーマを地域に関連付けられるような視点を促す。 |
| る学校作り | 情報発信の推進 | ・学校評価アンケートでは、学校のホームページが学校の様子をよく伝えていると回答した生徒が81%、保護者が74%。 | ・ホームページや SNS により、学校の 様子をよく伝えていると考える生 徒、保護者がともに 90%以上。 | ・学校の様子を分掌や教科、部活動などの単位で HP 等をとおして発信する。 | ・HP では月に 5 回程度情報発信を行っている。SNS の動画再生回数は平均 7 千回 (前年度 5 千回程度) で増加傾向にある。・学校行事毎に HP の更新を随時行うように努めた。また、八頭高だよりの掲載を行った。・探究活動の行事の様子を HP で発信した。 | | ・分掌、部活動単位での HP 担当者を決め、引き続き、PTA の活動も含め、学校の魅力発信につながるよう HP の作成を行う。 ・SNS についても、部活動の活躍や学校行事に関して積極的に掲載していく。 |
| 4 業務改善の推進 | 時間外業務の縮減への意識 | ・例年を踏襲している行事が多く、全体をとおして日程が詰まっており、時期によっては行事、会議が集中することがある。 ・令和5年度、時間外在校等時間が月45時間を超えた教職員が月平均9.0名、年間360時間を超えた教職員が20名。 ・令和5年度、年次有給休暇取得状況は、1人当たり13日。 | ・できるだけ縮減する方針で行事の 見直しが行われ、会議は短時間で効率よく終わる。 ・時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員が月平均 5 名以下、年間360 時間を超える教職員が10 名以下。 ・年次有給休暇取得が1 人平均14 日以上。 | ・会議が短時間で効率よく終えられるよう、校内掲示板を積極的に活用する。 ・行事、会議の開催ごとに、その効果と課題を検証し、今後の改善に繋げる。また、業務のあり方を検討し、業務の効率化と精選を行う。 ・学事システムの効率的な活用。 ・特に、予算に関わる事業については、その都度検証を徹底し、早期に方針を立てることでより効果的な事業を構築したり、効果が十分でない事業は廃止したりと精選を図る。 | ・進路指導部では、多くの求人票や大学、業者からの郵便物等の処理に多くの時間を要し、他の業務を圧迫している状況にある。 ・総務部では、同窓会や寮の業務について同窓会事務局と連携して分担などを行い、改善につなげられた部分があった。 ・探究部では、来年度予算を立案する際に、管理職、事務部とともに来年度の行事を精選するよう検討を行った。 | | ・引き続き学校行事について精査し、不要なものは減らしていくよう検討を加えていく。また、業務分担の徹底を図る。 ・ハイレベルセミナーの効果等について検証し、実施の可否について検討する。 ・求人票を効率よく整理するサービスの利用について検討する。 ・同窓会、寮、PTAの業務や活動の精選を図り、より効果的な体制を構築する。 |

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [30%以下]